

平成22年度 森プロ事業実績：可茂南部100年の森づくりプロジェクト（都市近郊林業）

（平成23年3月末現在）

	H20～21年度		H22年度				5カ年	
	計画	実績	計画	実績	達成率	備考	計画	
集約化(ha)	116	116	64	105	164%		283	
作業道(m)	8,700	9,330	5,100	4,194	82%	作業路含む	25,000	
間伐等	面積(ha)	83	35	56	40	71%	利用+切捨	221
	材積(m3)	2,232	1,697	1,117	1,035	93%		5,246
備考	団地外実績:利用間伐17ha 搬出材積962m ³ 作業道(路)開設2,200m							

H22年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む) 0円/m³

施業集約化の状況

・平成22年4月30日に第2団地として中切地区の説明会を実施した。その後戸別訪問も含め、団地内の90%以上の森林所有者と森林施業委託契約を締結した。

施業プランの活用状況

オペレータ研修の実習事業地(2.21ha、所有者5人)で作成し、事業不同意の1名の説明を試みたが、面会拒否で未活用。その他、1名に対して施業方法の打合せに活用した。

施業プランナーの養成状況

・施業プランナー1名

作業道の状況

- ・木材運搬を目的とする作業道(W=3.0~3.6m,L=2,100m)と利用間伐を目的とした緊急管理路(W=3.0m,L=2,094m)を開設した。作業道は幹線として、主に尾根部分を中心に開設している。
- ・設計・管理・先行伐採・開設は主に2名で実施している。
- ・谷や沢に、なるべく構造物を使用しない手法に挑戦している。



図-1 開設状況(森プロ第2団地 中切地内)



図-2 開設状況(森プロ第2団地 中切地内)

作業システムの状況

- ・作業道より20メートル以内の木材を中心に搬出しグラップル(集材)→チェンソーもしくはプロセッサ「リース」(玉切造材)→グラップル(積込)→トラックの作業システムで実施、利用間伐を目的とした緊急管理路ではグラップル(集材)→チェンソーもしくはプロセッサ「リース」(玉切造材)→フォワーダ「リース」(運搬)→トラック(積込・運搬)で行っている。
- ・平成23年3月に中間土場を活用し運搬を行った。職員間で情報共有するため、自力による運搬とコスト比較資料を作成中。



図-3 オペレーター研修の実施



図-4 プロセッサによる造材



図-5 中間土場による運搬

その他

- ・林産事業の拡大に向け、森林施業地集約化モデル事業にて、七宗町神淵地内(杉洞地区)に約500haの団地を設定し作業道の開設を行った。
- ・七宗町内だけでなく管内全域に事業を拡大するため、各地区林業推進委員会や森林管理協議会を通じて普及に努めている。



図-6 森林施業地集約化モデル事業の説明会(杉洞地区)



図-7 杉洞地区作業道開設状況



図-8 御嵩町林業推進委員会

森プロの成果

- ・集約化をするための説明会回数や開催時間、森林所有者との事前打合せ等ノウハウの蓄積ができた。
- ・人工林と天然林という区分でなく、流域的な森林管理の提案を実施することができた。
- ・モデル団地外にて利用間伐を目的とした作業道の開設ができた。

今後の課題

- ・実績の素材生産費と計画の素材生産費の乖離縮減
- ・利用間伐と作業道(路)開設の技術の向上(木材生産増加に向けて)
- ・利用間伐と伐捨間伐の事業の見極め(事業実施根拠の明確化)
- ・森林施業地の施業プランの確立